

秋の恵み

秋になり、予想よりも早く寒い日々がやってきました。今年も、このあきる野の美しい秋風景を紹介したいと思います。今回は少し趣向を変えたお気に入りの写真です。



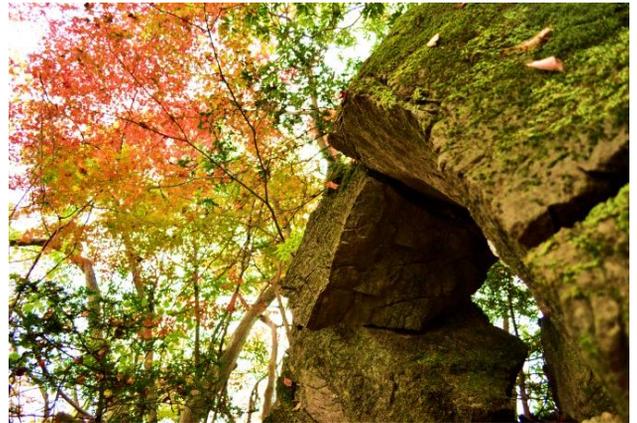
奥山の険しい斜面では、人間の手つかずの豊かな自然が残っています。秋の紅葉の時期にはありがたいものです。



身近な存在であるスズメは意外と減少傾向にあります。秋のこのような風景が変わらないことを期待します。



秋の雨の日も魅力的です。城山山頂から見た雲の上の金比羅山。通常では、なかなか見れない風景です。



道から離れた沢の奥には崖や岩場が多いものです。勝手にARC岩(円弧、弓型の意味)と言う名を付けたこの岩は、この季節にイロハモミジの色鮮やかな絵になります。



秋の奇跡 (今回の動物トピックス)

あきる野では重要な猛禽類調査を4年間も行っていきます。この調査により、オオタカ、ハチクマ、サシバやクマタカなどの繁殖成功率の低下や、つがいの減少などが見られています。そのような中、今年あきる野産唯一クマタカのつがいの幼鳥の巣立ちを確認しました。クマタカは2年～3年に一回繁殖を行い、他の猛禽類と違ってたった1個の卵を産みます。生まれる幼鳥は成長個体になるまで4年程度もかかり、それまでに死亡する例が多いと言われています。あきる野では2年ぶりに巣立ちが確認され、自由に飛び回り始めた若いクマタカが無事に成長することを祈りながら、見守っていきたいと思います。

[パブロ]



あきる野森林レンジャー

★ 自然を昔に戻す会



自然を昔に戻す会の活動の一つに、日陰対策で針葉樹の森を伐り、自分たちで育てたコナラなどの苗木を植える、ということがあります。また、植えるだけでなく苗木が育つまで下刈りなどの整備も行っています。

そしてもう一つ。全国的に里山で問題になっている竹を利用して、竹炭や竹酢液を作り続けています。

★ 地域とサポートレンジャー



地域と協働で進める森づくりでは、地域の方はもちろん市内外から集まったサポートレンジャーの力も強力です。また、森の子レンジャーを卒業した中学生がサポートレンジャーとなって輪に加わり、一層にぎやかになりました。

★ 自然や子どもと関わる人

市内小学校教員の理科部の先生方が行う研修の講師として、レンジャーが調査から見てきた自然、保全活動などを紹介しました。レンジャー活動で得た経験や環境教育が、学校教育を通してあきる野市の子ども達に伝えることを願っています。

また、東京都山岳連盟自然保護委員会や保育士から依頼を受け「視点が変わる、自然を深く知る」研修を通して自分にできることを共に考える場を作っています。



★ 子どもたち



森の子レンジャーの活動は今年で4年目。今年は、レンジャーが先生となって、人に伝える場面も増えてきました。私たちレンジャーの次世代が着実に育っています。（写真1 新宿の子どもたちに“木”を伝える）

3期レンジャーと取り組む「アニマルサンクチュアリ（野生動物との共存を目指す）」の森づくり。同窓会で集まって、植えた木が育つまで下刈り整備を続けて面倒を見ていこうね！楽しみだね（^◇^）（写真2）

市内小学校自然体験学習も今年で3年目となりました。多くの子どもたちに「自分たちが生まれ育った市の自然」を紹介し、現状を伝えています。あきる野市の自然にとってこうした種まきが大きな芽となる未来を信じています。（図1 体験学習を終えて子どもたちの感想）

←写真2 ↑写真1
↓図1

